

公募要領 ①電子工学応用分野

求人件名	茨城工業高等専門学校 国際創造工学科（機械・制御系）電子工学応用分野 助教又は准教授公募
機関名	茨城工業高等専門学校
機関URL	https://www.ibaraki-ct.ac.jp
部署名	国際創造工学科
機関種別	高等専門学校
求人内容	<p>[機関の説明(募集の背景、機関の詳細、プロジェクトの説明等)]</p> <p>高専は中学卒業者を対象とした5年制の国立高等教育機関で、その上に2年制の専攻科が設置されています。本校の学科は国際創造工学科の1学科4系（機械・制御系、電気・電子系、情報系、化学・生物・環境系）から成り、教員組織は4つの系、共通科目を担当する一般教養部、各分野を横断してグローバル教育などを行う専門共通教育部で構成されています。グローバル教育を推進し、世界で活躍できるエンジニアの育成を目指しています。なお、今回の公募では知能機械や情報応用分野の中核を担って頂く教員を求めています。</p> <p>[仕事内容(業務内容、担当科目等)]</p> <p>所 属 : 国際創造工学科（機械・制御系）</p> <p>専門分野 : 電子工学を主とするハードウェアと組込システムの応用分野 全般</p> <p>担当授業科目 : 上記専門分野に関わる授業科目、実験、卒業研究、特別研究等 ※所属以外の系や専攻科の科目を担当する場合があります。 ※卒業研究、特別研究はご自身の研究室をもってご指導頂けます。</p> <p>学生指導 : 学級担任、課外活動指導（部活動顧問等）、学生寮宿日直、等 校務・その他 : 学校運営、グローバル事業推進、授業補助、系内業務等</p> <p>[勤務地住所等]</p> <p>茨城県ひたちなか市中根866</p> <p>[募集人員]</p> <p>1名 助教又は准教授</p> <p>[着任時期]</p> <p>令和6年10月1日以降（応相談）</p>
研究分野	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報通信：ロボティクス、知能機械システム 2. ものづくり技術：制御、システム工学 3. 情報通信：知能ロボティクス
職種	助教又は准教授

勤務形態	常勤（任期なし）
勤務地	関東 - 茨城県
応募資格	以下の（１）～（５）の条件を満たす方 （１）学生の教育・指導に熱心な方 （２）PBL、アクティブラーニング、英語を交えた授業のような新しい教育方法の開発、実践に意欲的な方 （３）博士の学位を有する方又は着任までに取得見込みの方 （４）資格取得に積極的な方 （５）国籍は問わないが、業務に支障のない日本語運用能力を有する方
待遇	職 名： 助教又は准教授 （職名は経歴、業績等を考慮して決定します。） 給 与： 独立行政法人国立高等専門学校機構教職員給与規則による。 試用期間の有無： 有（６か月） 勤務時間・休日・休暇等： ・勤務時間は、午前８時３０分～午後５時００分（休憩４５分）です。 ・休日は、原則として、土曜日、日曜日、祝日、年末年始ですが、行事、課外活動指導等の際には休日勤務となる場合があります。 ・変形労働時間制が適用された場合、勤務時間、休日等が変更となる場合があります。 ・勤務時間・休日・休暇等の詳細については、独立行政法人国立高等専門学校機構教職員の労働時間、休暇等に関する規則によります。 保険等： 文部科学省共済組合（健康保険、厚生年金保険）、雇用保険、労災保険等
募集期間	令和６年６月２８日（金）（必着）
応募・選考・結果通知・連絡先	[応募書類] （１）履歴書（市販用紙に本人自筆。写真貼り付け。） （２）着任後の教育および学生指導に対する抱負（１,０００字程度） （３）これまでにやってきた研究の概要と着任後の研究計画（１,０００字程度） （４）主要論文・著書３編以内（コピー可、共同執筆の場合は分担箇所を明示すること。また、それぞれ１００字程度の要約を添付すること。） （５）研究・教育業績一覧（著書、論文、特許、口頭発表、外部資金獲得実績、その他の業績等に分類のこと。） （６）英語力を示すもの（英語による授業経験の有無、留学経験の有無、TOEICやTOEFL得点など。） （７）博士の学位取得者は推薦書１通又は、照会できる方２名の連絡先情報（住所、氏名、所属、職位、電話番号及び電子メールアドレス）。学位取得予定者は指導教員の所属、氏名、連絡先（本件に関し問い合わせる場合があります。推薦書は不要。）

	<p>[応募書類送付先] 〒312-8508 茨城県ひたちなか市中根866 「茨城工業高等専門学校 総務課 人事・労務係」宛 (封筒の表に「機械・制御系(電子工学応用分野) 教員応募書類在中」と朱書の うえ、「簡易書留」で郵送してください。原則として応募書類は返却ませんが、 特に返却を希望される方は、返信用封筒(切手貼付)を同封のこと。)</p> <p>[選考内容] 第一次選考 書類審査 第二次選考 一次選考合格者に対して面接審査(模擬授業を含む。7月下旬か ら8月上旬を予定。面接に際し、交通費等は支給できませんので、あらかじめ御 了承ください。)</p> <p>[連絡先(担当者所属、役職、氏名、e-mail、電話番号)] 茨城工業高等専門学校国際創造工学科 機械・制御系長 菊池 誠 TEL : 029-271-2937 E-mail mkikuchi@ibaraki-ct.ac.jp</p>
備考	<p>(1) 本校は、男女共同参画を推進しております。本公募においては業績及び人 物評価の結果が同一となった場合には、女性を優先的に採用します。</p> <p>(2) 本校は社会のニーズに答えるべくグローバル人材の養成を目指し、授業 を英語で行う取り組みを行っております。授業を英語で行える方、もし くはそのための努力を惜しまない方が望ましいです。</p> <p>(3) 応募前の本校の見学を歓迎いたします。お気軽にお問い合わせください。</p>

茨城高専の教員が携わる業務内容の概略

高専は、その教育目標や学生の年齢層（本科：16～20 歳，専攻科：21～22 歳）の幅広さなどから、大学や高等学校とは本質的に異なる点があります。高専の教員は、教育、研究、学生の生活指導などの全てに対して情熱を持って積極的に努力する姿勢が求められます。ここでは、茨城高専教員の業務について、認識をさらに深めていただくために、その主なものを記します。

（１） 授業等

教員の担当授業時数は、機械・制御系においては講義と実験・実習を合せて最大で週 30 コマ（1 コマ 50 分）程度になることがあります。これらにオフィスアワーが 1 コマ、担任を務めているときはホームルームが 1 コマ加わります。定期試験は年 4 回（前期中間、前期期末、後期中間、後期期末）あり、前期末と後期末に再試験があります。学年末には成績不振学生に対する仮進級の指導などを行います。また、教員相互に行う授業観察や年度末などに行う学生による授業評価などを通して、教育方法の改善に継続的に取り組むことが求められています。

（２） 学級担任

学級担任と専攻科のコース主任をしていただくことがあります。学級担任は、一学級 40 人程度の学生への勉学や生活指導など、学生生活全般にわたるきめ細かな指導が強く求められます。例えば、高等学校と同様に、教室清掃の指導がありますし、ソーシャルメディアの使い方の指導や、体育大会や茨香祭（文化祭）、研修旅行など各種行事での指導、学生への個人面談や保護者との懇談なども重要な職務となっています。

（３） 部・同好会の顧問

原則として全教員に部・同好会等の顧問に就いていただきます。日常的な指導をはじめ、高専大会（地区大会・全国大会）の運営や高体連などの各種大会やコンテストおよび練習試合の引率、合宿時の指導などがあります。引率・指導時に宿泊を伴う場合もあります。顧問に就任した部・同好会の経験者である必要はありません。

（４） 学校運営のための主事・副校長，主事補，各種委員会委員等

学校運営のために、校長の補佐として教務，学生，寮務の 3 主事と総務，地域連携・評価，専攻科の 3 副校長が置かれています。各主事と副校長には補佐として主事補などが配置され、主事・副校長の指示に従って職務を遂行します。また、様々な課題を審議するために各種委員会があります。さらに、高等教育機関としての教育・研究や社会貢献を目的として、各種センター，広報室，キャリア支援室が設置され、それぞれに課せられた職務にあたっています。こうした学校運営において積極的に活躍していただきます。

（５） 研究，卒業研究・特別研究指導

高専の教員は、教育面や学校運営への参画のみならず、研究面での業績も求められます。研究に対する意欲的な姿勢と成果が学校全体の教育研究面の活性化を促し、さらには地域社会への貢献につながるものが期待されています。また、卒業研究の指導や、専攻科学生を担当して特別研究を指導することもあります。

（６） 入試

本校への入学には、中学生を対象にした第 1 学年入学や高校生を対象にした第 4 学年編入学，高専や短大の卒業生を対象にした専攻科入学があります。これらの入試に作問，問題検査，採点，面接，試験監督等で関わります。

（７） 学寮の宿直

本校では、原則として女性教員を除く全教員に、年数回程度学寮の宿直が割り当てられます。約 200 名の男女寮生を指導するこの職務は、学寮運営上本校教員の重要な業務の一つです。

（８） 社会貢献

本校では、共同研究，受託研究，公開講座，出前講座など様々な形で地域連携活動を展開しています。地域社会からも様々な形で本校に対する要望が寄せられます。地域連携活動が学生教育へ及ぼす効果に加え、地域に根ざした高専としての存在価値を高めるためにも、高専教員には積極的に地域社会に対して貢献する姿勢が要求されます。